

GIGAスクール構想を 推進する取り組み

初等中等教育局 GIGA StuDX 推進チーム

はじめに

令和3年5月に公表された「GIGA スクール構想の実現に向けた ICT 環境整備（端末）の進捗状況について（確定値）」では、全自治体等のうち、1,748 自治体等（96.5%）が令和2年度内に納品を完了する見込みであり、ほとんどの学校で1人1台端末の環境が整うこととなった。これにより各学校においても、「環境整備」のフェーズから「活用促進」のフェーズへと移り変わる事となる。

ICT の効果的な活用については、中央教育審議会から令和3年1月26日に出された『令和の日本型学校教育』の構築を目指して～全ての子供たちの可能性を引き出す、個別最適な学びと協働的な学びの実現～（答申）においても、次のように述べられている。

1人1台の端末環境を生かし、端末を日常的に活用することで、ICTの活用が特別なことではなく「当たり前」のこととなるようにするとともに、ICTにより現実の社会で行われているような方法で児童生徒も学ぶなど、学校教育を現代化することが必要である。児童生徒自身がICTを「文房具」として自由な発想で活用できるような環境を整え、授業をデザインすることが重要である。

本稿では、ICT 端末の学習指導等で活用する際の具体的なポイントや、GIGA スクール構想を推進する文部科学省の取組を紹介したい。

GIGA スクール構想と新学習指導要領

学習指導等における1人1台端末を活用した授業づくりを行う上で、学習指導要領とGIGA スクール構想との関係について整理をしておきたい。

次ページ図1上部にあるように、2030年の社会と子供たちの未来を見据え、社会の変化が加速度を増し、複雑で予測困難な時代に、変化を前向きに受け止め、社会や人生、生活を、人間ならではの感性を働かせてより豊かなものにすることが述べられている。

これを受け、学習指導要領では、その前文に「一人一人の児童（生徒）が、自分のよさや可能性を認識するとともに、あらゆる他者を価値のある存在として尊重し、多様な人々と協働しながら様々な社会的変化を乗り越え、豊かな人生を切り拓き、持続可能な社会の創り手となることができるようにすること」を求めている。そして児童生徒がこのような持続可能な社会の創り手となるために最も大切なのが、資質・能力の育成である。

GIGA スクール構想は、学習指導要領のカリキュラム・マネジメントにおける、物的な体制整備に位置付けられ、全国の小・中学校でICT 端末が整備されることが教育の機会均等の実現を支える資源となる。これにより、児童生徒一人一人に確実に資質・能力を育成するための「主体的・対話的で深い学び」の視点からの授業改善や、個別最適な学び及び協働的な学びの一体的な充実を進めていく上で、教育・学習におけるICT活用の特性・強みを生かした教育活動を行っていくことが期待される。

教育・学習における ICT活用の特性・強み

具体的なICT活用の特性・強みについては次の三点が考えられる。

一点目は、多量で大量の情報の取扱いができ、容易な試行錯誤ができることである。例えば、ウェブブラウザによるインターネット検索等によって情報収集したり、表計算ソフトによるデータ等の整理・分析やグラフ作成などを容易に行ったりすることが可能となる。

二点目は、時間的制約を超えた情報の蓄積、過程の可視化を行えることである。写真・動画の撮影・保存によ

て学習過程を可視化し学習の振り返りに生かすことや、学習支援ソフトを活用した児童生徒のつまずきや伸びについての教師の見取りなどを行うことができる。

三点目は、空間的制約を超えた相互かつ瞬時の情報の共有（双方向性）ができる点である。ウェブ会議、ファイル共有等による家庭、他の学校・地域、あるいは海外との交流といった距離が離れた場をつないだ学習ができる。さらに、他者との意見共有、比較検討、合意形成やアイデアの創出、発表資料等の協働制作が可能となる。

このような ICT の特性・強みを生かすことで、従来はなかなか伸ばせなかった情報活用能力等の資質・能力の育成や、今までの学習方法では困難さが見られた児童生徒への効果の発揮、そして今までできなかった学習活動の実施が可能となる。

全ての教師が1人1台端末を活用した実践を行うための取組

令和2年9月までに1人1台端末が整備された自治体

は全体の約4%であり、ほとんどは令和3年度から本格的に実践を行う自治体となる。このような現状を踏まえ、1人1台端末を活用した実践を行うためには、次のような視点で取組を行うことが考えられる。

- ・多くの学校・教師にとって、パソコンルームから普段の教室での1人1台端末の“普段使い”は初めての試み。最初からパーフェクトということではなく、試行錯誤が大切であること。
- ・各教育委員会は、GIGA スクール構想に関する情報発信や教員研修を実施して学校現場をサポートしていくことが大切であること。

さらに、文部科学省では、GIGA スクール構想に伴う1人1台端末及び高速大容量通信環境の積極的な活用を推進していくため、日々子供たちと向き合う教師の方々や教育委員会等の学校設置者に対する支援の更なる充実を目的として、文部科学省内に教員出身者も含めて構成される「GIGA StuDX (ギガ・ステー・イクス) ※推進チーム」を創設した。

※「GIGA StuDX」とは：GIGA スクール構想の浸透

新学習指導要領とGIGAスクール構想の関係

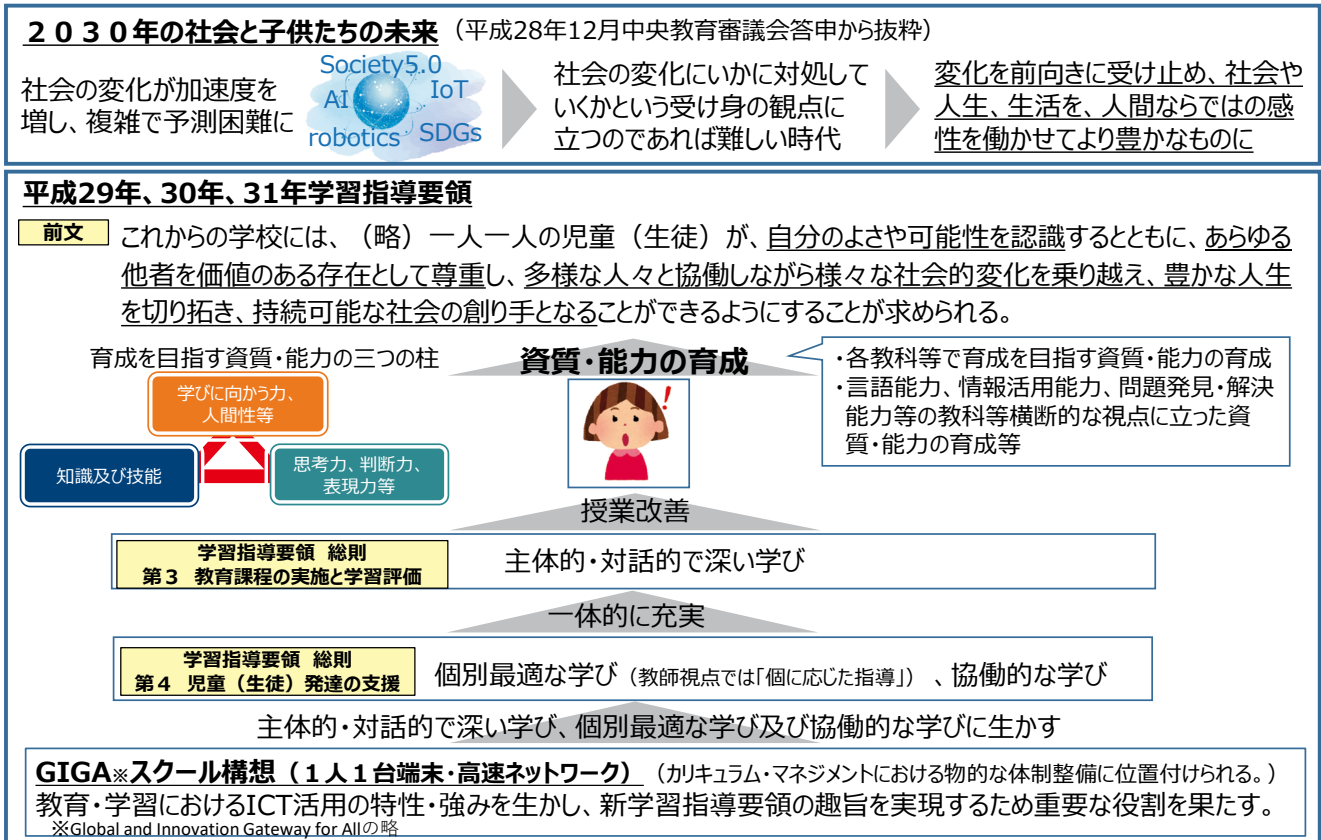


図1 新学習指導要領とGIGAスクール構想の関係

による学びのDX（デジタルトランスフォーメーション）と学校の教育活動におけるICT活用への促進のためのExchange（情報交換）を掛け合わせた造語。

「GIGA StuDX 推進チーム」では、まずチームのメンバーがそれぞれ担当地域をもち、当該地域でICT教育を中核的に担う教育委員会の担当者等とオンラインも活用しながら繋がり、人的なネットワークの構築を図ることにより、教育委員会・学校との協働体制をつくりあげ、教育活動において参考となる事例の収集・発信を行うこととしている。加えて、現場と密にコミュニケーションを取りつつ、現場の教育関係者が抱える悩みや課題、実情などを汲み取りながら、それぞれの自治体の実情に応じたきめ細やかな支援を行っていく（図2）。

支援の一環として、現在各教育委員会とのオンライン相談会を行っている。例えば、教育委員会におけるGIGAスクール推進の担当者と共に「推進の課題は何か」

「うまくいっている取組はどんなものか」といった、現時点での課題や成果等を共有し、よりよい推進につながる情報交換等を行っている。そして、オンライン相談会の様子は、メールマガジン等で配信し、広く周知を図っている。

ICT 端末の有効な活用について

文部科学省では、ウェブサイト「StuDX Style」において、導入時における1人1台端末の活用事例を紹介している（次ページ図3）。「まず、端末が学校に整備されたら何からはじめればよいか」「どんなことから指導をすればよいか」といった悩みに答える、はじめの一步となる事例を掲載している。

事例は、「導入にあたって」「使ってみよう」「教師と子供がつながる」「子供同士がつながる」「学校と家庭がつながる」「職員同士でつながる」といったカテゴリに分か

「GIGA StuDX 推進チーム」と教育委員会・学校との情報交換プラットフォーム

文部科学省のGIGA StuDX推進チームと、各教育委員会のICT活用担当の指導主事等が人的ネットワークを構築し、学校等の取組の状況、教育委員会のサポート状況や、課題とその解決策等を双方向にやり取りしながら、文部科学省と自治体、自治体同士のつながりを強化し、全国の学校等におけるICT活用の充実につなげ、協働して「GIGAスクール構想の実現」に取り組む。

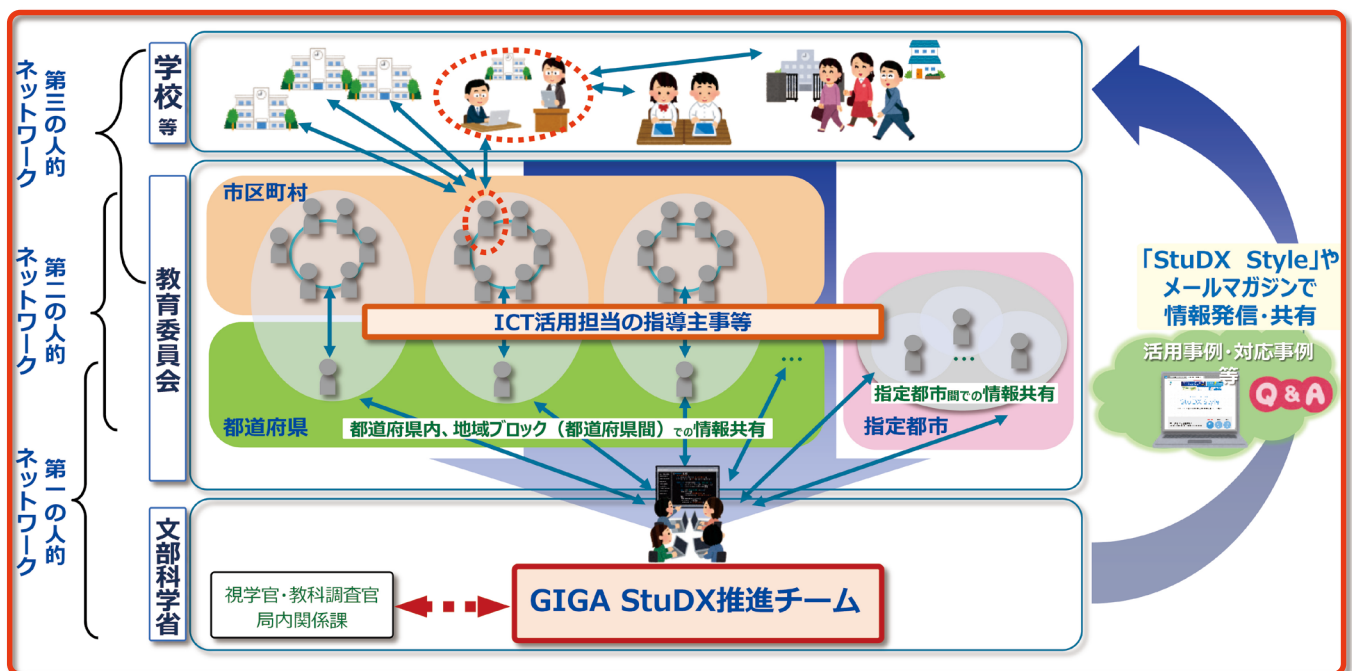


図2 教育委員会・学校との情報交換プラットフォーム

れている。

例えば、端末の置き場所を含め、身の回りの整理整頓などの学習環境を整えること、最初の指導は少人数で行うこと、そして、端末利用のルールづくりや意識付けをすることなど、導入に効果的と考えられる事例の順に、番号を付けて紹介している。さらに、各教科等における活用のページも教科別・校種別で様々な活用方法の事例を掲載している。各学校においては、まず端末に慣れるところから始まり、様々な使い方を試行錯誤する中で、教師と子供とで一緒に進めていっていただきたい。

スタディーエックス スタイル 「StuDX Style」について

1人1台端末の利活用をスタートさせる全国の教育委員会・学校に対する支援活動を展開するため、「すぐにも」「どの教科でも」「誰でも」活かせる1人1台端末の活用方法に関する優良事例や本格始動に向けた対応事例などの情報発信・共有を随時行っていきます。

慣れるつながる活用

GIGAスクール構想の実現 生きる力 文部科学省
～学校における1人1台ICT端末～ 学びの、その先へ 新しい学習体験の場

子供の学び応援サイト STEAM EASY 新しい学びのプラットフォーム 未来の教室 ホールサイト

スタディーエックス スタイル
StuDX Style
GIGAスクール構想を浸透させ 学びを豊かに変革していくカタチ

"すぐにも" "どの教科でも"
"誰でも"活かせる1人1台端末の活用シーン

慣れるつながる活用 各教科等での活用 準備中

教師と子供が つながる 子供同士が つながる 学校と家庭が つながる 職員同士で つながる

GIGAに慣れる (文房具や教員として使えるようにする)

民間企業等によるICTの効果的な活用に関する参考資料 (提供元50音順)

iPad活用に関する資料 (提供元 Apple) Google for Education 活用に関する資料 (提供元 Google for Education) Microsoft Education 活用に関する資料 (提供元 日本マイクロソフト株式会社)

GIGAに慣れる

学習環境①

StuDX Style (慣れるつながる活用) :
<https://www.mext.go.jp/studxstyle/index.html>

各教科等での活用

GIGAスクール構想の実現 生きる力 文部科学省
～学校における1人1台ICT端末～ 学びの、その先へ 新しい学習体験の場

子供の学び応援サイト STEAM EASY 新しい学びのプラットフォーム 未来の教室 ホールサイト

スタディーエックス スタイル
StuDX Style
GIGAスクール構想を浸透させ 学びを豊かに変革していくカタチ

各教科等における1人1台端末の活用

慣れるつながる活用 各教科等での活用 準備中

小学校

国語	社会	算数	理科
生活	音楽	図画工作	家庭
体育	外国語活動 外国語	特別の教科 道徳	総合的な 学習の時間
特別活動			

中学校

国語	社会	数学	理科
----	----	----	----

StuDX Style (各教科等での活用) :
<https://www.mext.go.jp/studxstyle/index2.html>

図3 文部科学省ウェブサイト「StuDX Style」